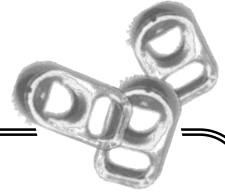


「参加率100%を目指そう」を合言葉に「プルタブを集めて車椅子を贈ろう」北海道地区キャンペーンを3ヶ月間に亘って推進してまいりました。結果は、昨年1年間の実績に対して参加者数が2.1倍、収集重量が1.7倍と過去に無い大きな成果を上げる事ができました。皆様の熱心なご協力に感謝申し上げますと共に北海道地区のポテンシャルの高さを改めて認識した次第です。

中でも釧路エリアの尾山さん、札幌エリアの遠国さんが共に13Kgを超える偉業を達成し東西の横綱に番付されました。今回は、尾山さんにプルタブ収集に対する取り組み方(体験談)を記して頂きました。

日頃の活動で連携している方々への呼び掛けが功を奏したようです。尾山さんの真剣なお付き合いがベースになったようです。ご覧下さい。

会長 安達 均



## みなさんにご協力いただきました。

釧路・帯広エリア 尾山 仁

キャンペーンが始まっていつまでたっても溜まらないプルタブ、久保顧問の4.84Kgは途轍もなく遠く、手の届く重量ではありませんでした。

個人で収集することに限界を感じていましたが、組織上の立場を利用して個人的なお願いをすることには抵抗がありました。しかし背に腹は変えられず7月中旬、町内会の一人の役員へ協力をお願いをしましたところ少しなら有ると500gほど頂きました。またその時次のような話を聞きました。

- ① 今、ペットボトルのキャップを収集する団体が多いがプルタブ収集の団体は少ない。
- ② 特に当ては無いが過去の習慣で溜めている人は意外と多いと思う。
- ③ 溜めてはいるが引き取ってくれる人がいない。処分の方法が分からない。そんな人が多いのではないか。この情報がきっかけとなり、もっと積極的に展開しうまいったら5Kg超えも可能と思い、町内会の多くの方々にお願いしました。

その結果、6Kgほど集まりました。情報とお取り扱い団体が多く、溜めているが協力提出先が分からず困っている方々も居られ、「貰ってくれる人がいて良かった」と感謝して下さる方もいました。

6Kgが集まりこの調子なら10Kgも可能と思い、8月上旬に所属する学習サークルの仲間にも協力をお願いしました。その結果33人の会員の半数以上のご協力をいただき合計6Kgほど頂きました。

キャンペーンが終わり9月5日、出掛けに最終結果のファックスが入りました。

タイミング良く、その日はサークルの親交を深めるパークゴルフの日でした。

プレーが終わりキャンペーンの結果報告と協力への感謝の気持ちを述べさせて頂きました。会員の皆さんはまるで自分のことのように喜んでいただきました。そして協力して頂いた方々には強い思いがあったことを聞かされました。私はサークルの事務局としてお手伝いしていますが、会員の皆さんは日頃から私に恩義を感じておられたようで、大半の方がありとあらゆる方法でかき集めて下さったようです。

中には、「帯広の実家まで取りにいったんだよ」「私は標茶の弟の家まで行った、弟は職場の同僚から集めたみたい」など、たかがプルタブですがその中に一人一人の熱い思いがあったことを知りました。

一握りのプルタブでも一人から何人にも枝別れして何人もの人が係わっていただいたことを知りました。

私は今回のキャンペーンを通じ、これほどまで真向な仲間と一緒にサークル活動を出ることが有難く誇らしく感じました。

館山エリアリーダーが回収に来宅し計量中、町内会の方が来宅「プルタブが少し溜まりました」との事、すかさずいただきに行きその量200gも館山リーダーに回収していただきました。

今回の成果は町内会やサークルの方々のお陰と運の良さで達成することが出来たキャンペーンであったと思います。



皆さまのご協力で集まりましたと・・・尾山さん  
館山エリアリーダー撮影